

天声人語

「日本の記者はイチローのことならひざの屈伸まで報道する」と米紙に報じられた▼そのころチームの同僚が彼につけたあだ名は「ウイザード」（魔法使い）。ガラス箱に入れられた展示動物のように大量の視線を終始浴びながら、試合となれば力を發揮する。その姿に同僚たちも感嘆した▼駄かつぎも数々報じられた。忘がたいのは、グラウンドへ歩き出すときの最初の一歩の決め方。右足で踏み出して打てなかつた翌日は、左足から。打てた日の翌日は同じ足で。精緻である

▼大リーグで10年もの間、シーズン200本安打という記録を打ち立てた。ただし、その時期ですらスランプに陥った。安打が途切れ、ふさぎ込むのはたいてい170本を超えたあたりだ。重圧のすさまじさを思う。そのイチロー選手がきのう引退を表明した▼ムチのようになるバット、ミリ単位の選球眼、レーザービームと呼ばれた送球、驚異的な守備範囲の広さ。「僕はほかの選手のように特別な才能がないから、バランスがよくなければいけない」。そんな自分への腋しさもファンを魅了した▼「イイイイイイチロー」。大リーグの球場ではイチロー選手が打席に入るとそんなアナウンスが場内に流れた。あの打者紹介がもう聞けなくなるかと思うと、無性に寂しい。